

令和2年産水稻の作付面積及び9月15日現在における作柄概況 (徳島県)

【調査結果の概要】

1 作付面積

令和2年産水稻の作付面積（青刈り面積を含む。）は1万1,700haで、前年産に比べ300ha（2%）の減少が見込まれます。

なお、水稻の作付面積（青刈り面積を含む。）から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積を除いた主食用作付見込面積は1万700haが見込まれます。

2 作柄概況

(1) 徳島県及び作柄表示地帯別

徳島県の10a当たり予想収量は476kgとなり、前年産に比べ12kgの増加が見込まれます。また、作況指数は101（平年並み）が見込まれます。

作柄表示地帯別では、10a当たり予想収量は北部が489kg（前年産に比べ21kg増加）、南部が443kg（同13kg減少）と見込まれます。また、作況指数は北部が102（やや良）、南部が96（やや不良）と見込まれます。

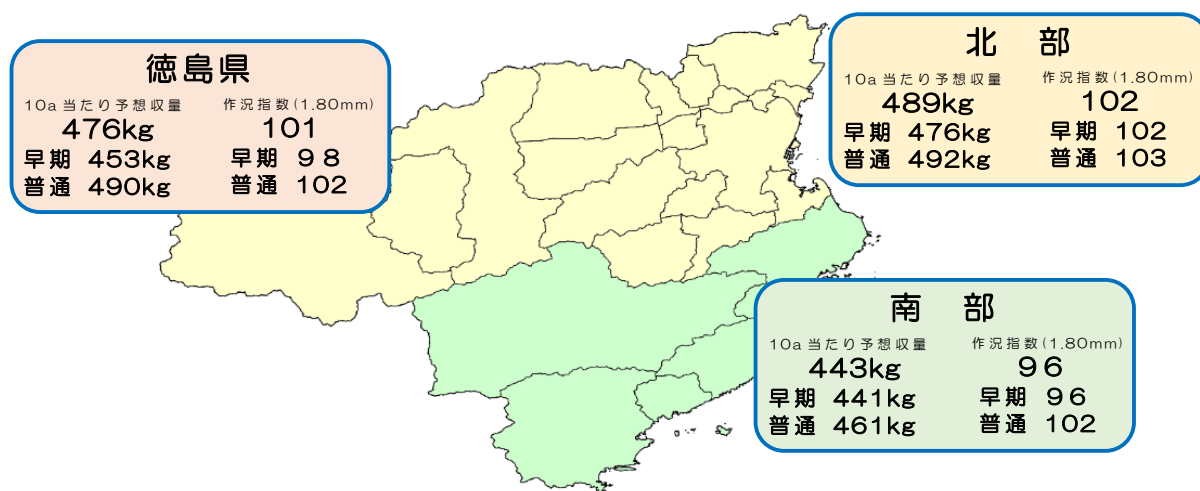
(2) 早期栽培

穂数は、田植後の4月の低温等により初期生育が抑制されたため「やや少ない」となりました。1穂当たりもみ数は、幼穂形成期である6月が日照不足であったものの、高温で推移したため「平年並み」となりました。この結果、全もみ数（穂数×1穂当たりもみ数）は「やや少ない」となりました。

登熟は、全もみ数が少ないことに対する補償作用に加え、8月以降天候に恵まれていることから「やや良」となりました。

この結果、早期栽培の10a当たり収量は453kgとなり、前年産に比べ3kg減少しました。また、農家等が使用しているふるい目幅（徳島県1.80mm）以上に選別された玄米を基に算出した作況指数は98（やや不良）となりました。

図 作柄表示地帯別、作期別10a当たり予想収量及び作況指数（9月15日現在）



(3) 普通栽培

穂数は、7月が低温・日照不足で経過したものの、8月が高温・多照で経過したことから「平年並み」となりました。1穂当たりもみ数は、8月が高温・多照に経過したことから「やや多い」となりました。この結果、全もみ数は「やや多い」となりました。

登熟は、全もみ数がやや多いことによる相反作用に加え、8月以降の高温による障害発生、台風第9号及び台風第10号による倒伏等の被害により、「やや不良」が見込まれます。

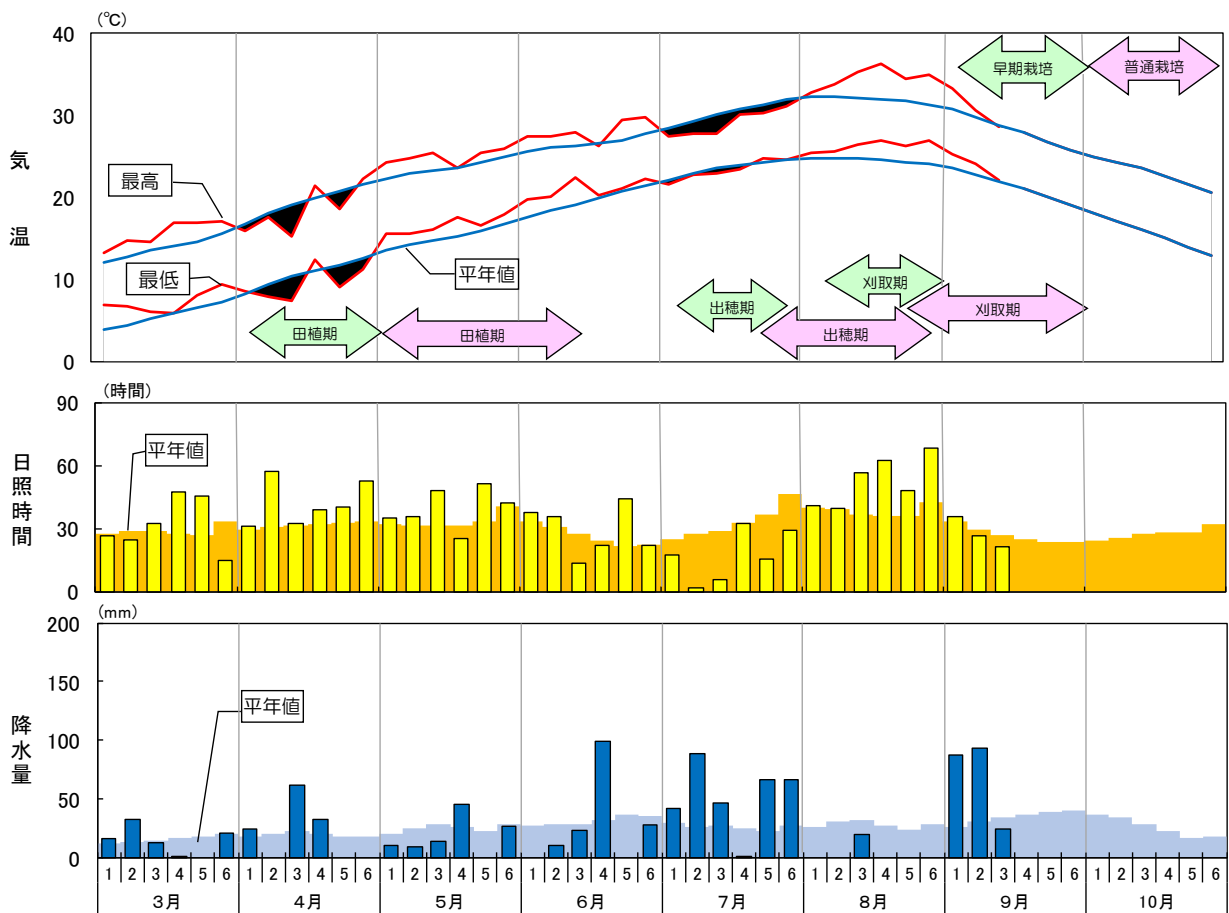
この結果、普通栽培の10a当たり予想収量は490kgとなり、前年産に比べ20kgの増加が見込まれます。また、作況指数は102（やや良）が見込まれます。

3 予想収穫量（主食用）

主食用作付見込面積に10a当たり予想収量を乗じた予想収穫量（主食用）は、5万900tと見込まれます。

◎半旬別気象図

徳島市の気象図



気象庁「アメダス」を基に作成

本資料は、「令和2年産水稻の作付面積及び9月15日現在における作柄概況（中国地域・四国地域）」の補足資料です。統計表及び調査の概要等は、同資料をご覧ください。

お問い合わせ先

中国四国農政局 徳島県拠点 統計チーム 担当：近藤、半田
電話：088-625-6990 FAX：088-655-4657